



インタビュー まちづくり

NPO法人おもしろカンパニー
理事長 津ノ井美晴さん



【プロフィール】

結婚を機に横浜へ。中3、中1、小5、小1の子どもたちを育てるママ。自身の子育てを通して地域活動をしていく中で、仲間とともにおもしろカンパニーを設立。

●NPO法人おもしろカンパニー

活動拠点：おもしろハウス産の下のたい
横浜市南区中村町2丁目124番地5 045-341-0108
水曜日～金曜日／営業時間はお問合せください

10/29午後中村地域ケアプラザで
2年ぶりにハロウィンイベントを開催。



*市民主体のまちづくりを市が応援する仕組み。

「活動を始めたきっかけはなんですか？」

ケアプラザから「子育てサークルをつくってほしい」と相談され、当時、子どもが同じ小学校の根島さん(現理事)とサークル活動を始めました。子育てサークルの環境でハロウィンのイベントを開き、年々、参加者が増えていきました。始めは子どもとお母さんだけでしたがケアプラザに通うお年寄りも巻き込んで規模を拡大していきました。この頃、誰もが集まって気軽にしゃべりできる拠点が欲しいと考えるようになり、まち普請事業*に合格。その間に法人を立ち上げたり耐震工事のためにクラウドファンディングで資金調達したりと怒涛の勢いで準備していきました。

「どんな活動をしているのですか？」

お買い物に出るのが難しいお年寄りのために電話で注文を聞き自宅まで届ける買い物代行サービスをしています。地域の居場所としてオープンしたおもしろハウスでは、月火は高齢者向けの通所サービス、水木の昼にお弁当、午後にはクレープや駄菓子販売。月一回ひとり親世帯など支援が必要な方へ食品を提供するフードパントリーもしていて毎週金曜の夕方には子ども無料のカレーの日を開催しています。

「なぜお年寄りの買い物代行を？」

このあたりは坂の多い地域です。子ども

も小さい時に「大丈夫？」と優しく声をかけてくれた近所の人たちが、10年も経つと買い物するにも大変な思いをしているのを知り、私たちに何が出来るか考えました。個人的に買い物のお手伝いをしてもらっても遠慮されるので、利用してもらいやすいように法人事業として活動をはじめました。

「コロナ禍での心境の変化は？」

地域の居場所のおもしろハウスが開けない状況はとても心苦しかったです。店内で食事ができないのならテイクアウトで！と気持ちを切り替えました。買い物支援は、利用されている方には大切なライフラインなので、これだけは続けよう！と決心しました。これまで休まず張りきっていたところがあるので、「コロナ禍は休息の時間だと捉えること」にして、今は焦らず、細く長く続けていこうと考えを改めるようになりました。

「今後の活動を教えてください」

以前はお年寄りがサロンに通っているところに子どもが集まり、勉強したり遊んだり賑わっていました。徐々に再開して、誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所になっていきたいと思います。また近隣のお年寄りや子育て中のお母さんをつないで、子どもを見守ってもらいながら働いたり、料理を習ったりできる場にもしていけたらと考えています。

身近でできるSDGs

このコーナーではSDGsの17の目標に向けて身近にできることを紹介していきます。今回は瀬谷区でどんぐりを使った製品を販売している事業所を紹介します。

どんぐり食品



瀬谷区にある株式会社まちふくでは、どんぐりの粉を使ったお茶やクッキーを製造し販売しています。どんぐりは9～11月が収穫のシーズン。藤沢市や横浜市にある企業の敷地や公園で、茶色く熟し、木から落ちたばかりのマテバシを集めます。その量は年間1500キロ。およそ25万粒だそうです。縄文時代から食べられていたというどんぐりは、マグネシウムやカルシウム、ポリフェノールが含まれ、栄養が豊富。お茶は自然な甘さでノンカフェインなので、妊婦さんや小さな子どもにもおすすめです。

作っているのは…



株式会社まちふくは、障害者就労継続支援B型事業所です。拾ったどんぐりを洗って天日干しをして、炒って、ひとつひとつ手作業で割って粉にしたり、できた製品にラベルを貼って発送・販売したり、その工程の全部を障がい者の方が担っています。

お話を伺った方
株式会社まちふく
代表取締役社長 田中博士さん



時には、子どもたちと一緒にどんぐりを集めたり、お茶にする工程を見せたりして、自分たちの食べるものについて考えるきっかけを与え、自然への感謝の気持ちを伝える活動をしています。小学校で出前授業も行っています。



●購入できる場所

Café Leaf II (関内)
まる然商店(洋光台)
自然食品の店ヘルロード(大和市)

オンラインショップも出店予定はHPで



会社の情報

所在地：瀬谷区久和南3-39-9-2階
☎045-369-0168

自然にいいこと、人にいいことを心がけています。

実は、プロのストリートダンサーとしての横顔も。

季節と暮らそう 秋のお届け便

「横浜市子ども植物園」より、季節の植物を紹介します。

最も栽培の歴史が古い果樹 秋の味覚・栗



クリは、日本や朝鮮半島原産のブナ科の樹木で、ヨーロッパやアメリカにも仲間が分布しています。子どもたちの人気者「どんぐり」を実らせるクヌギやカンに近い植物です。どんぐりとは固い皮に覆われた堅果とよばれるブナ科植物の果実のことで、色々な形の殻斗(どんぐりの帽子の部分)が着く点特徴です。堅果である栗もどんぐりのひとつといえます。栗の場合、イガのついた殻斗にすっぽりと覆われています。クリは厳重に種子を保護しているという訳ですね。じつは、イガの部分は一般的な果実という皮にあたり、栗色の鬼皮はなんと果肉に相当します。私たちが食べるのは種子の部分です。ふつうひとつのイガの中に並んで3つの栗が入りますが、大概、真ん中は押しつぶされています。ひとつしか入らない品種もあります。

(緑の相談員・速水善浩)

【問い合わせ】 横浜市子ども植物園 入園無料
南区六ツ川13-122 ☎045-741-1015 開園時間9:00～16:30

*園内で開催している子ども向けイベントをベイ★キッズLINEでお知らせ。LINE登録は4面を見てね。

パパと遊ぼう!

よこはま子どもカレッジの「名物せんせい」

陶芸教室コー子編

陶芸家
高野さおり先生

陶芸歴22年。障害者施設、老人ホーム、各種企業、地区センターで出張陶芸教室を実施。子ども向け教室も10年以上にわたって開催し、受講生は延べ数千人に。

Q.お父さん、お母さんに伝えたいことは何ですか？

本当に子どもは色々な可能性を持っています。陶芸が、お子さんの新たな可能性を見つけるきっかけになればうれしいですし、陶芸に限らず色々な体験を通して、親御さんがお子さんの可能性を見つける、理解してあげるという意識でいてもらえたら、子どもはどんどん幸せになれるんじゃないかな、って思っています。

子ども達に様々な体験を提供している「よこはま子どもカレッジ」。子どもたちを指導してくれている個性豊かな先生を紹介します。

Q.先生の陶芸教室で大切にしていることは何ですか？

大人の方に陶芸と言うと、決まった形のもを綺麗に作らないと、というイメージがあるかもしれませんが。私の陶芸教室では、器やお皿といったものに限らず、何でも作りたいものを自由で作ってください!と言っています。過去には、お寿司や、蚊取り線香を作ったお子さんもいました(笑)。そんな子どもが自由に発想できる雰囲気大切にしています。

Q.陶芸を通して伝えたいことは何ですか？

作陶していると、その子の性格や得意なことが見えてくるんです。上記のように自由なものを作ってもらくと、親御さんから「うちの子〇〇好きだなんて知りませんでした。」というお声をよく聴きます。決まった形を作るのではなく、自由に作ることで、子どもが作る楽しさを感じたり、新たな発見があったりするので、そういうきっかけにもらえたらと思っています。



asobii
yokohama

「よこはま子どもカレッジ」公式HP

